

平成21年3月期 第1四半期決算短信

平成20年7月31日

上場会社名 ユニ・チャーム株式会社
 コード番号 8113 URL <http://www.unicharm.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 高原 豪久
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長 (氏名) 岩田 淳
 四半期報告書提出予定日 平成20年8月14日

上場取引所 東

TEL 03-3451-5111

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第1四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	83,947	—	7,574	—	8,122	—	4,117	—
20年3月期第1四半期	77,743	11.9	6,122	16.9	6,325	22.5	2,810	3.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第1四半期	64.61	—
20年3月期第1四半期	43.62	43.50

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第1四半期	273,253	181,476	60.1	2,578.11		
20年3月期	275,435	179,170	58.9	2,545.79		

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 164,311百万円 20年3月期 162,251百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	23.00	—	23.00	46.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	27.00	—	27.00	54.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	167,000	—	14,800	—	14,200	—	7,100	—	111.40
通期	352,000	4.5	36,000	6.7	34,400	6.4	17,500	4.9	274.58

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
 新規 — 社(社名) 除外 — 社(社名)
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 無
 (注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第1四半期 68,981,591株 20年3月期 68,981,591株
 ② 期末自己株式数 21年3月期第1四半期 5,248,467株 20年3月期 5,248,303株
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第1四半期 63,733,228株 20年3月期第1四半期 64,424,900株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。
 ・本資料の予想には、本資料の発表現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期（平成20年4月1日から平成20年6月30日まで）は、第7次中期経営計画「グローバル10計画」の実現に向け、国内主力事業の強化と海外事業の拡大に取り組みました。国内のパーソナルケア事業では、高付加価値製品の投入と価格の安定化の実現による収益性の改善に取り組みました。また、ペットケア事業では、ペット飼育の4大潮流「室内飼育化」「小型犬化」「高齢化」「肥満化」をとらえた製品ライン強化に取り組みました。

海外事業では、世界最大のマーケットであるアジア地域の成長を加速する為、主に、中国・インドネシアにおけるベビーケア事業の強化に取り組みました。また、台湾・韓国や中東・北アフリカなどの地域においても売上を拡大した結果、当第1四半期の売上高は83,947百万円（前年同期比8.0%増）、営業利益は7,574百万円（前年同期比23.7%増）、経常利益は8,122百万円（前年同期比28.4%増）、四半期純利益は4,117百万円（前年同期比46.5%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

①パーソナルケア

【ベビーケア事業】

国内では、環境負荷を低減した『ムーニーマン スリムパンツ』、『ムーニーマン汗スッカリ』を発売し、市場の活性化と価格の安定、そして収益改善に取り組みました。さらに、社会の環境に対する意識の高まりに応えるため、「CO2排出権付ベビー用紙おむつ」を発売するなど、新たな試みに取り組みました。また、『マミーポコ』『マミーポコパンツ』では、パッケージのデザイン性を高め、袋入り枚数を減らし収益性の強化を図りました。

一方、海外では、成長市場において積極的な販売・マーケティング活動を展開しました。中国では売上を大きく伸ばし収益の改善が進みました。インドネシアでは、『Mamypoko Pants Standar』が当初の計画を上回る実績をあげました。また、中東・北アフリカ地域では、サウジアラビアを中心に売上が順調に拡大しました。

【フェミニンケア事業】

国内では、製品機能を高めた高付加価値製品を投入し、市場の活性化に取り組みました。生理用ナプキンでは、3月に改良新発売した、夜用タイプの『ソフィ 超熟睡ガード』の販売に注力し、『ソフィ はだおもい』『センターイン コンパクト』と合わせて高付加価値カテゴリーの強化に取り組みました。また、生理用タンポンでは、『チャーム ソフトタンポン スーパープラス』を新発売し、品揃えを拡充して使用者の拡大を図りました。

海外では、アジアに展開する各国において、夜用タイプ・スリムタイプなど高付加価値ナプキンを中心に販売を強化しました。中国では、夜用タイプの広告投入により認知を拡大しました。また、歩留り改善などのコストダウンに取り組み、収益を改善しました。

【ヘルスケア事業】

国内では、大人用パンツ型オムツ『ライフリー』パンツシリーズや『ライフリー あんしん尿とりパッド』を改良し、販売強化に取り組みました。また、団塊世代の高齢化が進み、ますます拡大すると予測される軽失禁市場において、『チャームナップ 吸水さらフィ ライト』の新発売など、健康な高齢者向けの尿モレ対処品を新発売し、新たな付加価値を提供いたしました。

業務用分野においては、独自の排泄ケアモデルの提案を継続することによって、新規顧客の獲得に注力してまいりました。

海外においては、台湾とタイにおいて『Lifree』ブランドの展開を加速し、独自の排泄ケア提案によって着実に売上を拡大しました。また、ヨーロッパを中心としたパンツタイプ紙オムツも順調に売上を伸ばしました。

【クリーン&フレッシュ事業】

クリーン&フレッシュ事業では、新たなお掃除習慣を提案するシートクリーナー『ウェーブ』シリーズより、『ウェーブ 立体フロアワイパー』を発売しました。さらに、『ウェーブ 立体フロアワイパー』『ウェーブ ハンディワイパー』に限定カラー品を投入し、ラインアップ強化による売上の拡大を図りました。

海外では、当社が保有するシートクリーナー『ウェーブ』のシート技術を、ザ・プロクター・アンド・ギャンブル社にライセンス供与しています。この技術を用いた「スイッファードスターズ (Swiffer Dusters)」は、同社によって北米ならびにヨーロッパ地域において販売され、当社のロイヤリティ収入に寄与しました。

②ペットケア

「健康と清潔でペットの暮らし快適に」の理念の下、ペットが元気で長生きし、清潔な環境で暮らしていくためのペットフード部門、ペットトイレタリー部門の2事業部門に特化して、事業展開を図ってまいりました。消費者ニーズを捉えた製品の開発・市場創造に努め、国内のペット飼育の4大潮流「室内飼育化」「小型犬化」「高齢化」「肥満化」を踏まえた製品ライン拡充と販売促進を行ってまいりました。

ペットフード部門では、室内飼育の増加、去勢・避妊率の増加による肥満犬・猫の増加により、高まりつつある肥満対策ニーズに対応した製品として犬用『銀のさら おいしいカロリーコントロール』、猫用『銀のスプーン おいしいカロリーコントロール』を発売いたしました。また、猫用ウェットフードにおいて、消費者使用意向の高い“スープ”タイプとして、『銀のスプーン おいしいスープ』を発売いたしました。

ペットトイレタリー部門では、犬の排泄処理用シート『デオシート』において、従来のワイドサイズより一回り大きいサイズとなる『デオシート ワイドプラス』を発売いたしました。このワイドプラスの投入により、『デオシート』は、レギュラーサイズ、セミワイド、ワイド、ワイドプラス、スーパーワイドの5サイズの展開となり、より犬のオーナーのニーズに適切に応えることのできるラインアップとなりました。

③その他

不織布・吸収体の技術を活かした業務用製品分野においては、スーパーマーケット等を顧客とする食品包材事業を中心に、業務用食品包材である『フレッシュマスター』のスーパーマーケットへの浸透強化と、飲食店ルートへの販売を強化しました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における総資産は273,253百万円となり、前期末より2,182百万円減少しました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少1,782百万円などによるものです。また、純資産は181,476百万円となり、前期末より2,305百万円増加しました。これは主に、四半期純利益4,117百万円による増加および、配当による減少1,465百万円などによるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

第2四半期連結累計期間、通期ともに、当初予想（平成20年4月28日公表）と変更ありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②たな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

なお、これによる損益へ与える影響は軽微であります。

③「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（企業会計基準委員会 平成18年5月17日 実務対応報告第18号）を当第1四半期連結会計期間から適用し、連結決算上必要な修正を行っております。

なお、これによる損益へ与える影響は軽微であります。

④所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号（平成5年6月17日（企業会計審議会第一部会）、平成19年3月30日改正））及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業

会計基準適用指針第16号（平成6年1月18日（日本公認会計士協会 会計制度委員会）、平成19年3月30日改正））が平成20年4月1日以降開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、当第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、これによる損益へ与える影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

	(単位：百万円)	
	当第1四半期 連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	74,096	86,850
受取手形及び売掛金	36,505	38,287
有価証券	17,501	6,906
商品及び製品	11,044	10,167
半製品	12	6
原材料及び貯蔵品	8,879	8,815
仕掛品	326	311
その他	7,342	6,489
貸倒引当金	△79	△83
流動資産合計	155,629	157,751
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	24,679	25,298
機械装置及び運搬具	44,909	45,582
その他	16,321	15,582
有形固定資産合計	85,910	86,463
無形固定資産		
のれん	3,517	2,542
その他	1,132	1,202
無形固定資産合計	4,649	3,745
投資その他の資産		
その他	27,254	27,668
貸倒引当金	△190	△192
投資その他の資産合計	27,064	27,476
固定資産合計	117,624	117,684
資産合計	273,253	275,435

	当第1四半期 連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
(負債の部)		
流動負債		
支払手形及び買掛金	37,223	38,481
短期借入金	3,206	3,427
未払法人税等	2,707	6,696
賞与引当金	1,720	3,279
その他	32,380	30,548
流動負債合計	77,238	82,433
固定負債		
長期借入金	1,609	1,451
退職給付引当金	6,237	6,105
その他	6,692	6,274
固定負債合計	14,539	13,831
負債合計	91,777	96,265
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	15,992	15,992
資本剰余金	18,590	18,590
利益剰余金	157,085	154,331
自己株式	△28,130	△28,129
株主資本合計	163,539	160,785
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,212	1,910
繰延ヘッジ損益	△9	△45
土地再評価差額金	△324	△324
為替換算調整勘定	△1,107	△75
評価・換算差額等合計	772	1,465
少数株主持分	17,164	16,919
純資産合計	181,476	179,170
負債純資産合計	273,253	275,435

(2) 四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

	(単位:百万円)
	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
売上高	83,947
売上原価	50,345
売上総利益	33,601
販売費及び一般管理費	26,027
営業利益	7,574
営業外収益	
受取利息	183
受取配当金	118
有価証券売却益	36
為替差益	577
その他	177
営業外収益合計	1,093
営業外費用	
支払利息	70
売上割引	463
その他	12
営業外費用合計	545
経常利益	8,122
特別利益	
固定資産売却益	1
貸倒引当金戻入益	5
特別利益合計	6
特別損失	
固定資産処分損	160
その他	3
特別損失合計	163
税金等調整前四半期純利益	7,965
法人税、住民税及び事業税	2,655
法人税等調整額	75
法人税等合計	2,730
少数株主利益	1,117
四半期純利益	4,117

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

(要約) 前四半期連結損益計算書

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年6月30日)
区分	金額 (百万円)
I 売上高	77,743
II 売上原価	45,641
売上総利益	32,101
III 販売費及び一般管理費	25,979
営業利益	6,122
IV 営業外収益	752
V 営業外費用	549
経常利益	6,325
VI 特別利益	208
VII 特別損失	183
税金等調整前四半期純利益	6,351
法人税等	2,866
少数株主利益	674
四半期純利益	2,810